



## セミナー情報 第1回 皮膚病理講座 診断編

### 「皮膚病理診断への第一歩」 (開催地：東京)

□2007年開催の皮膚病理診断学入門と同内容です

#### プログラム

##### 第1部 皮膚病理診断法

「パターン分類とアルゴリズム解析」

- 1) 臨床と病理
- 2) 皮膚病理診断の方法

##### 第2部 炎症性皮膚疾患

- 1) 炎症性皮膚疾患

##### 第3部 腫瘍性疾患

- 1) □色素細胞性母斑
- 2) □皮膚付随器腫瘍
- 3) □角化細胞腫瘍
- 4) リンパ球増殖性腫瘍
- 5) 軟部組織腫瘍

##### 第4部 変性と沈着

- 1) 異物
- 2) 変性壊死
- 3) 沈着

- ・各種皮膚疾患の病理組織像を理解する。
- ・皮膚病理診断学の3要素、診断基準項目、診断のてがかり、そして鑑別診断を具体的に把握する。
- ・皮膚病理診断の方法「パターン分類とアルゴリズム解析」を理解する。

#### 受講対象者

- ・皮膚科または病理の専門医、皮膚科臨床医  
※皮膚疾患に関する基礎知識がある方。

講師：木村鉄宣 (札幌皮膚病理研究所 所長)

助言者：福本隆也 (奈良県立医科大学皮膚科学教室)

日時：2008年11月23日(日) 10時～17時  
11月24日(月・祝) 9時～16時

定員：100名

会場：慶應大学医学部 東校舎講堂 (東京都新宿区信濃町35番地)

共催：慶應大学医学部皮膚科

参加費：32,000円

早期申込割引参加費：  
28,800円

## セミナー報告記

今年度開催したセミナーの様子を、参加された方々の声や会場の写真からお届けします

### 第7回皮膚病理講座基礎編・東京、参加者様の声より

「以前よりあった疑問が色々解決しました。臨床と病理がより結びつき嬉しかったです。」「ポイントを押さえた大変分かりやすい説明でした。」

### 第8回皮膚病理講座基礎編・大阪、参加者様の声より

「大学病院のように病理を教えてもらえるような環境にいないのでまず何からどのようにみていけばよいかの入り口が少し分かりました。とても勉強になりました。」

### 第15回札幌皮膚病理セミナー、参加者様の声より

「日頃聞いていることを系統的に勉強できて本当によかったです。明日からの診断にさっそく生かしていきたいです。」

各セミナーともお陰様でとても好評でした。  
みなさんもぜひ次のセミナーへ参加してみませんか？



1 第15回札幌皮膚病理セミナー

1 第7回皮膚病理講座基礎編・東京

## 学術業績・学会発表・最近の活動

- 第15回札幌皮膚病理セミナー (開催地：札幌) 2008年9月14日、9月15日

「臨床皮膚科に役立つ皮膚病理学 新しい発見とアイデア」

主催：NPO法人皮膚病理発展推進機構 共催：札幌皮膚病理研究所

- 第72回日本皮膚科学会東部支部学術大会 2008年9月20日～21日

「NB-UVB療法が奏効したLangerhans□ell□isticytosisの1例」

発表者：相原央子、奥山泰裕、川田博史、池田志幸、比留間政太郎、木村鉄宣

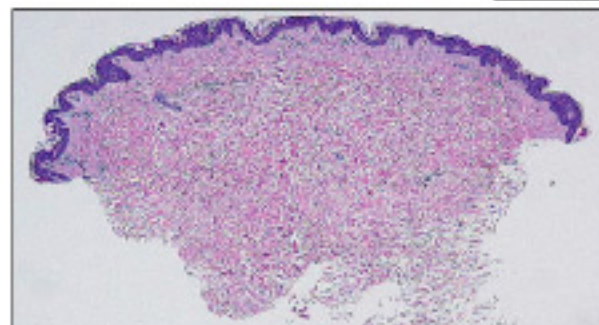
## 今後の活動

- 2008年10月16日 講演  
沖縄皮膚科勉強会「毛包の正常組織を理解すると毛包腫瘍の病理診断は簡単になる!？」  
於：ホテルロイヤルオリオン
- 2008年10月31日～11月2日 CPC座長  
第10回日本-中国合同皮膚科学術会議□会場：杭州

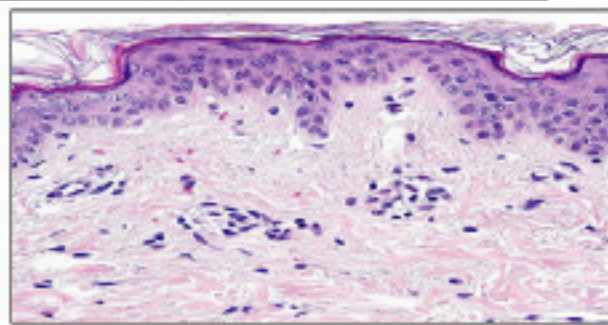


## 今月の症例

20才、女性 生検部位：右大腿  
臨床診断：慢性色素性紫斑 R/O 血管炎  
病理組織診断：Schamberg's disease  
(Persistent pigmented purpuric dermatitis)



真皮上層に軽度の炎症性細胞浸潤がある。



小血管周囲にリンパ球と組織球が浸潤し、血管外に赤血球が漏出している。表皮には変化はほとんどない。

## 研修医紹介

最近研究所にいらしゃった研修の先生達をご紹介します。

### 伊東慶悟先生



東京慈恵会医科大学皮膚科学講座（大学院）に所属しています伊東慶悟と申します。今年の7月から研修を開始しました。2年前にも6か月間札幌皮膚病理研究所で研修をさせて頂いた後に、2年間のアメリカ（ボストン）留学を経て、再び札幌に戻ってきました。現在興味があるのはMelanocytic lesionです。来年の3月までよろしくお願い致します。

### 川崎裕史先生



こんにちは。このたび7月から10月までの4ヶ月間、研究所で研修させて頂きました成城メディカル皮膚科（LAクリニック）の川崎裕史と申します。

以前より木村先生のセミナーには参加していたのですが、やはり現場での木村先生のお話・仕事ぶりは格別でした。鑑別診断の難しいもの、元々の病変に新しく病変が加わったもの等に対し、いかに手がかり所見、鑑別所見、支持所見の3つを見つけ、診断に迫っていくか、また、その推理が相手に伝わるようにいかに報告書に作成していくかを勉強させて頂きました。

そして圧巻に感じたのは、膨大な数の標本を限られた時間内に効率的にreadingしている手垢のついた情報より各個人に帰属する固有の体験の方が価値が高いということを実感できたことです。毎週、東京と札幌との往復のため、週の2-3日しか札幌では過ごせなかったのですが、木村先生・古賀先生をはじめ、心良く迎えていただいたスタッフ・研修医の皆様方にも心からお礼致します。今後、研究所・木村先生から得た知識や経験を日常診療や日常業務に役立たせ、自らもステージをあげていきたいと思っておりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。ありがとうございました。

### Chiu, Cheng-Sheng先生

台湾から日本に留学中のChiu先生が、研究所へ1週間研修にいらしゃいました。Chiu先生はNPO法人皮膚病理推進発展機構の奨学金制度を利用し研修されました。

後列 宮下先生、伊東先生、古賀先生



前列 定久、Chiu先生、木村先生

この他の研修の先生達の研修医日記も、ホームページで公開しています。ぜひ一度ご覧下さい。↓

<http://www.sapporo-dermpath.com/index-kensyudairy.html>

## What's new 研究所

8月・9月生まれの職員の誕生日をお祝いました。

西村（9月生まれ） 和田（8月生まれ）



↑ケーキ持ってるんですが…見えますか？

中西（9月生まれ）



中西は基本的に土曜出勤のため、左の2人とは別の日でのお祝いとなりました。

## 札幌皮膚病理研究所

〒001-0018 札幌市北区北18条西3丁目2-21 TEL: 011-756-4810 FAX: 011-756-4842

e-mail: office@sapporo-dermpath.com website: <http://www.sapporo-dermpath.com> 編集担当：和田 ひろみ